

ら は た 訪 探 史 歴 58 其の クラブ

TAHARA
History Inquiry
Club

潮騒の伊良湖岬

新年明けましておめでとござい
ます。10月の合併から早くも3か月
が過ぎました。新田原市は、温暖で
三方を海に囲まれた渥美半島の大部
分を占めることとなり、その歴史・
文化・風俗などにおいてもより多彩
なものとなりました。そこで、今月
号より旧渥美町地区を含めた幅の広
い歴史探訪クラブをお届けします。
「伊良湖岬」は、皆さんご存じの
とおり渥美半島を代表する観光スポ
ットとして、全国にその名が知られ
ています。この伊良湖について今回
は取り上げてみたいと思います。



万葉の歌碑

郷土資料館に勤務していますと、
よくこんな問い合わせがあります。
それは、伊良湖という地名の読み方
についてです。地元にとっては「い
らこ」で当たり前なのですが、世間
の人たちからすれば「いらこ」と「い
らこ」どちらが正しいの？というこ
とになるようです。確かに漢和辞典
を引いてみますと、伊良湖の湖の字
に「ゴ」という読みはなく、最も自然な
読み方をすれば「いらこ」になって
しまうのです。しかし、伊良湖は「い
らこ」であって「いらこ」ではあり
ません。その理由としてよくあげら
れるのが、現存する最古の歌集「万
葉集」の中に出てくる伊良湖という
地名の表記の仕方です。

風光明媚な伊良湖の地は、古来よ
り都などで歌枕として広く知られ、

多くの文人たちによって、数々の
名歌が詠まれました。そして、前述
した万葉集の中には、天武朝の皇族
であった麻績王が罪を得て伊良湖に
流されたとき、里人が哀れんで詠ん
だ「打ち麻を麻績王海人なれや伊良
湖の島の玉藻刈ります 巻1・23」
（麻績の王は海人であるのか、海人
でないのに伊良湖の島の海草を刈つ
ておられる。おいたわしいことだ）
という歌、それに王が「うつせみの
命を惜しみ浪にぬれ伊良湖の島の玉
藻刈りをす 巻1・24」（この世の
命の惜しさに私は波にぬれて、この
伊良湖の島の海草を刈って食べてい
るのです）と応えた歌、このほか、
かの有名な柿本人麻呂が伊良湖を
題材にして詠んだ「潮騒の伊良湖の
島辺こぐ船に妹乗るらむか荒き島み
を 巻1・42」という歌、計3首が
掲載されているのです。ここで注目
すべきは、伊良湖の「こ」の表記で
す。そのいずれにも「虞」という漢
字が使われています。そこで改めて
辞書を引いてみると、虞には、呉音
で「グ」または「ゴ」漢音で「ゲ」
という読み方があり、このことから、
伊良湖が万葉のころより「いら
こ」と呼ばれたとされているのです。
ちなみに、江戸時代に伊良湖を訪れ



芭蕉翁之碑

た松尾芭蕉が詠んだ歌「鷹ひとつ見
つけてうれし伊良湖崎」を寛政5年
（1793年）に歌碑として建立した
碑面（芭蕉翁之碑）にも、やはり同
様の虞という漢字が使われています。

以上のようなことから考えてみて
も、伊良湖は「いらこ」ではなく「い
らこ」なのです。明治時代となり、
たまたま地名の統一がなされること
に現在の「湖」という漢字が使用さ
れたがゆえに、このような混乱が生
じるということになったのです。

皆さんも旅先に出かけてその土地
土地の地名の読み方で苦労をした経
験があるうかと思えます。かくも地
名とは難しく、またその由来などを
知ることはおもしろいものなので
ね。（天野）

渥美郷土資料館 33局 1127